

徳とく泉すい寺じ報ほう

No. 8 8

発行

令和7年2月

発行元 徳泉寺

仙台市宮城野区

榴岡3-10-3

(022)297-4248

tokusenji.sendai@gmail.com

[ai@gmail.com](mailto:tokusenji.sendai@gmail.com)



ホームページ

[tokusenji-](http://tokusenji-sendai.com)

[sendai.com](http://tokusenji-sendai.com)



Instagram

[tokusenji.sendai](https://www.instagram.com/tokusenji.sendai)



TOKUSENJI.SENDAI

心を寄せる 供物を捧げる

お供え（おそなえ） つてなえに

もうすぐ春のお彼岸ですね。寒い冬を越えて、お墓参りの人たちで徳泉寺の境内も賑やかになる季節です。お墓参りには何を持っていきますか？仙台ではたいいていお花を一对お持ちになるのではないのでしょうか。坊守の地元、岐阜の山地ではお花は本家のかたがあげるもの、それ以外の親族は手桶に水を汲み、お墓へ手を合わせていたように思います。仙台に嫁いだ当初、お彼岸やお盆にお墓が花いっぱいになる様子を大変驚かされました。

他にはお香。そしてお菓子や果物、また飲み物をお供えされているかたもあるようです。お香に関しては、お線香をご持参いただくかたもあるようですが、徳泉寺では防火の観点から、手提げ香炉を貸し出しています。お抹茶でお焼香いただくスタイルですのでぜひご利用ください。お声掛けいただいて、一言、二言お話しできることもまた喜びのひとつです。

さてさて、それではお供えって何なのでしょう。仏さまには口もなければ消化器官もありません。でも、お供えには、ご先祖や懐かしいかたを思っただけの意味があるように思います。浄土真宗ではお供えをどのように位置づけているのでしょうか。ちよつと住職に聞いてみましょう。



仏さまの願いに気づく場をいただくための準備です。

「ご法事やお内仏（お仏壇）、お墓におまいりする時の「おそなえ」は、「お供え」と書きますが、準備をするという字を当てて「お備（そなえ）」するという意味もあります。お香やお花を備えて亡き方を訪れていく。故人を偲ぶ準備をするということですのでその方が好きだった物を用意される方もおられます。

ところで、「お供え」の文字は、供養という言葉に通じます。供養というと、「亡き方に感謝して行う」「故人の霊をなぐさめる」というイメージが強いのではないのでしょうか。ですが、供養は本来「仏（ほとけ）に仕（つか）える」ということを表します。仏とは私を照らす光にたとえられますが、亡き方がむしろ私を案じてくださっている。大切な方の命をたずねることで私自身の生き方に目覚（めざ）めていく。私の姿に気づかせていただく。そういう場として仏事をお迎えするということが供養の意味だと言えます。

「お供え」を準備させてもらうのは私たちだけけれど、仏さまの願いがそこに備（具）わっている。故人を訪ね、我が身を考えさせていただく。ご法事やお墓参りなどで仏さまに手を合わせるというのはそういう場をいただいているということなのです。お花や果物などは生命の象徴でもあります。お供えしたお供物も大切にいただいでいきましょう。